

『罪と罰』における「古風な表現」について

(女性名詞単数造格語尾「-ию/-ью」の使い分け)

安藤 厚

北大文学部ロシア文学講座では平成2年度教育研究学内特別経費によるスラブ研究センターとの共同研究プロジェクト「ロシア文学の計量的分析へのアプローチ」(研究代表者 灰谷慶三教授)で欧文用光学的文字読み取り装置を購入し、福井大学教育学部の浦井康男氏の全面的な支援と助言を得て、⁽¹⁾ロシア語テキストデータベースの構築をはじめた。以下はその作業の概略と、そこから得られたささやかな研究成果である。

⁽¹⁾浦井氏の仕事については同氏の「キリル文字の光学的読み取りとスペルチェッカーの作成」(「福井大学教育学部紀要」第I部:人文科学(外国語・外国文学編)第44号1992年7月 pp.55-75)を参照。

第1節 ロシア語テキストデータベースの作成と運用⁽²⁾

⁽²⁾本節はスラブ研究センター1992年度冬季研究報告会のパネル「ロシア文学研究の今日的課題」(1993年1月30日)における筆者の報告「パソコンを利用したロシア文学研究の現状と課題」の要旨である。

①ロシア語テキストの光学的読み取り Optical Character Recognition (OCR)

光学的文字読み取り装置 Kurzweil 5200 を使って、『罪と罰』(約400頁、18万語)のテキストデータベース(約1.1MB=110万字)を作成した。⁽³⁾Kurzweilは強力な学習機能を備えたラテン文字用光学的読み取り装置で、英、仏、独語などについては、それぞれ約5万語の参照辞書を内蔵しているので、自動運転(読み取り速度1頁1~2分)でも99%以上の読み取り精度が確保される。ロシア語の場合、キリル文字をラテン文字の形で読み取ることになり、参照辞書もないので、モニター画面上で確認・修正しながら運転するが、それでも読み取り速度(1頁15~20分)、精度(99%以上)とも実用的な水準が得られる。

⁽³⁾使用テキストはアカデミー版30巻全集第6巻: *Достоевский Ф. М. Полное собрание сочинений в тридцати томах. т. 6. Л., 1973.*

②キリル文字の1バイト処理システム

読み取ったデータは独自のラテン文字表記になっているので、コードを変換し、これ以降は浦井氏考案の「Advanced bits によるキリル文字1バイト処理システム」上で処理した。このシステム上のデータはMS-DOSのテキストファイルであり、1文字1バイト処理なので、ファイルが過大にならない、文字化けの心配がない、dBXL(データベース)、TEXAS(検索プログラム)、OCP(コンコードダンス作成プログラム)などさまざまなソフトの中でも取り扱える、などの利点がある。またIBM機上でも、Advanced bits

と同じ働きをする PDS、EGA Font などを利用して、そのまま取り扱うことができる。さらに SED などのユーティリティーを使えば、「テクノメイト」「スローヴァ」「ヨールカ」「ルースコエ・スローヴァ」など現在一般に使用されている MS-DOS 上のロシア語ワープロソフトのロシア文字、JIS記号の全角ロシア文字、あるいは Macintosh のロシア語フォントなどに容易に変換できる。⁽⁴⁾

⁽⁴⁾ロシア文学講座では平成4年度教育研究学内特別経費による研究プロジェクト「ゴンチャロフの文体の数量的・総合的研究」(研究者 大西郁夫助手)で Macintosh 機を購入した機会に、浦井氏のシステム及び「テクノメイト」上のロシア文字を Macintosh のロシア語フォントに変換するプログラムの作成を依頼し、ほぼ完成している。プログラムの完成後は製作会社が PDS として公開を予定している。

③スペルチェッカー

このデータには0.5~1%程度のミスがあるので、エディター上で大まかに校正したあと、浦井氏作成のスペルチェッカーにかけて綿密な校正を行った。

スペルチェッカーは最近「オルフォ」のロシア語版が発売されたが、浦井氏のものは参照辞書の出典が明確な点で利点大きい。氏の辞書はカラムジン『ロシア人旅行者の手紙』に現れる単語約10万語形のみから成るので、処理の結果、カラムジンとの比較で『罪と罰』の「新出単語」(形容詞約1,200語、その他約7,900語形:全件数の5~6%)のリストが得られた。このリストでは特にミコールカ、ソーニャら下層民衆の使う、聖書、正教の彩りの強い単語や、ドイツ系の下宿のおかみの使うドイツなまりの単語が目につく。これらは語彙としてはきわめて特殊でゴミのようなものだが、登場人物の性格描写の手段として重要な役割を果たしており、文体研究の対象としては注目に値する。

またこの校正の過程で30巻全集と他の版のテキストの異同がかなりの数見つかった。明らかな誤植のほかに、主に句読点について30巻全集がある程度独自の編集を行っている箇所がわかってきた。最近ペテルブルグから旧正字法、旧句読点による全集の出版が予告されたことなどを考え合わせると、⁽⁵⁾テキストの細部の研究には、テキスト学的にさらに踏み込んだ検討が必要のようである。

⁽⁵⁾旧正字法、旧句読点による全集刊行は意義深い計画である。この計画にはトゥニマーノフ氏はじめ旧ドストエフスキー全集刊行グループの主要メンバーが加わっているので、信頼できる版が出来ると期待している。ただ現状では学問的校訂を経た旧正字法の版は存在せず、アカデミー版30巻全集の価値がにわかに失われるわけではないので、今回は30巻全集に依りつつ、必要に応じて初出の«Русский вестник»版を参照した。

④コンコーダンス

できあがったデータを浦井氏が Oxford Concordance Program (OCP) で処理し、『罪と罰』のコンコーダンス(1行の文脈つきの用語索引、約2,200頁)を試作してくれた。全体で約176,000件の単語から、句読点と、出現頻度の高い16語(и, не, в, что, он, на, я, с, а, как, это, его, так, но, же, да)を除外して、収録された単語が約131,000件、重複を取り除くと約26,000語形である。まだ試作版で改良すべき点も多いが、整備すればテキスト研

究の重要な武器となるはずである。

⑤検索プログラム Text Analyzing System (TEXAS)

このデータは、検索プログラムを利用すれば、手軽にさまざまなかたちの検索ができる。今回の研究には弘前大学人文学部の清水明氏作成の TEXAS を利用した。

⑥ロシア語形態生成プログラム

電気通信大学の岡本哲也教授と浦井氏の共同作成した「ロシア語形態生成プログラム」^⑥を利用すると、このデータの各単語に「基本形」「文法的属性」「アクセント位置」などの表示を大部分機械的に付加できる。『罪と罰』のデータにもその処理を行うべく、現在準備作業を行っている。

^⑥このプログラムは1993年度の電気通信大学紀要に「ロシア語の形態生成とprolog系」として発表の予定と聞く。

現時点でパソコンを利用したロシア文学研究の課題は、共通に利用でき信頼できるテキストデータを大量に蓄積することと、コンピュータの得意とする単語の検索、リストアップ、数量的処理などをテキスト解釈にうまく結び付けてゆくアイデアを得ることである。この課題の解決には共同研究の輪を広げてゆくことが重要と思われる。

第2節 『罪と罰』における女性名詞単数造格語尾「-ию/-ью」の使い分け

江川卓氏は『謎とき「罪と罰」』のなかで、女性名詞 *жизнь* の造格形が『罪と罰』では *жизнию/ью* と二通りに表記されていることに注目してこう記している。

従来、「今までの生活で」とか、「これまでの生涯に」と訳されてきたところに、ことさら「これまでに彼が生によって」などと異を立てたのは、ここの原テキストが一癖も二癖もあるものだからである。ここの「生」には、「生活」とも「人生」とも「生涯」とも訳せる、ごく一般的なロシア語 «жизнь» の変化形（「……によって」を意味する造格形）が当てられている。ところがその形が、ふつうに用いられる «жизнью» (ジ-ズニョ) ではなくて、«жизнию» (ジ-ズニユ) という古形なのである。ルビを振れば同じになってしまうが、ドストエフスキーの用語例では、「ь」という軟音記号の代わりに母音の「и」を使うのは、主としてその単語にある種の特別の比重をかけようとするときに限られている。しかもここの一句の語法、シンタクシスはきわめて特殊で、到底よどみなく訳せるようなしろものではない。^⑦

^⑦江川卓『謎とき「罪と罰」』新潮社1986年 pp.159-160。ここで取り上げられているのは【参考資料】⑥ *жизнию* 08212 の例である。

このような細部へのこだわりは、同書に「多年、ドストエフスキーには『悪文家』の

評判がつきまどってきた。内に鬱積する巨大な思想を吐き出そうと急ぐあまり、文章を練りあげる余裕など持てなかった、といった伝説も、まことしやかに流布されてきた。しかし、これはたいへんな誤解である。たしかに簡潔、流麗といった形容詞はふさわしくないだろうが、この小説でドストエフスキーが示した言葉と文体への気くばり、神経には想像を絶するほどのものがある。文字どおり一語一語に、作者の執念と粘着力が感じとられると言ってもよい」(p.15)と記した江川氏のドストエフスキー観を反映している。ドストエフスキーの作品や創作ノートをすこし詳しく検討すれば、この作家が表現の細部まで細心の注意を払って作品を作り上げていることは明らかである。特に『罪と罰』はテキストの隅々まで計算し尽くし磨き上げられているとあってよい。筆者が『罪と罰』のテキストデータベースの構築に手を染めた動機のひとつには、それがこの「想像を絶するほどのドストエフスキーの言葉と文体への気くばり」をより客観的なたちで解明するための基礎になるのではないかという期待があった。

本節では、江川氏の指摘を手がかりに、『罪と罰』でИ変化の女性名詞の単数造格語尾「-ию/-ью」がどのように使い分けられているか、用例を検討し、その「使い分け」の基準を考える。その際、浦井氏提供のカラムジン『ロシア人旅行者の手紙』のデータ^⑧(約1.0MB=100万字)についても同様の調査を行い両者を比較する。

^⑧使用テキストは「文学記念碑」版：Карамзин Н. М. Письма русского путешественника «Литературные памятники», Л., 1984. データを提供してくださった浦井氏に心から感謝を表したい。カラムジンの文体の特徴については Левин В. Д. Очерк стилистики русского литературного языка конца XVIII-начала XIX в. (лексика). М., 1964 を参照。

今回の調査は、時間の制約もあって、このようにきわめて狭い範囲に限定されている。表題の『罪と罰』の「古風な表現」全般について論じることはできないが、その第一歩としたい。

データベースの検索によってカラムジンと『罪と罰』に現れる女性名詞単数造格語尾「-ию/-ью」の用例を集めたところ、後掲の【参考資料】のような例が得られた(スペースの制約から大部分は単語とその出現頻度の表示にとどめた。またこの例には ночьюのような造格形から出た副詞も含めてある)。これを数量面でまとめると次のようになる。

	カラムジン	【罪と罰】
総数	366件122語 (132語形)	278件111語 (128語形)
「ию」	233件 89語	68件 42語
「ью」	133件 43語	210件 86語
「もっぱらию」	192件 79語	27件 25語
「両方使用」(ию)	41件 10語形	41件 17語形
「両方使用」(ью)	20件 10語形	51件 17語形
「もっぱらью」	113件 33語	159件 69語

		単語（造格形）の長さ （1語平均）	使用頻度 （1語形平均）
カラムジン	「もっぱら и ю」	9.7字	2.4回
	「両方使用」	8.4字	3.1回
	「もっぱら ь ю」	6.9字	3.4回
『罪と罰』	「もっぱら и ю」	11.8字	1.1回
	「両方使用」	8.9字	2.7回
	「もっぱら ь ю」	8.5字	2.3回

ここからわかるように、カラムジンでは「-ию/-ью」の出現件数の比率がおおよそ2/1で、「-ию優勢」だが、『罪と罰』ではそれが1/3と逆転し、「-ью優勢」になっている。

特に『罪と罰』の「-ию」の用例（68件42語）は、カラムジンの「-ию」（233件89語）、『罪と罰』の「-ью」（210件86語）、いずれと較べてもはるかに少ない。なかでも「もっぱら-ию使用」の単語は27件25語ときわめて少数で、むしろ「-ию/-ью両方使用」の単語（17語、「-ию」41件）のほうが多数を占めている。

したがって、江川氏の「ドストエフスキーの用語例では、『ь』という軟音記号の代わりに母音の『и』を使うのは、主としてその単語にある種の特別の比重をかけようとするときに限られている」という指摘は、「もっぱら-ию使用」の単語よりも、むしろ「両方使用」の単語の「-ию」の用例に関係していると考えられる。

それを確かめるため、カラムジンと『罪と罰』のあいだで「-ию/-ьюの使い分け」がどのように変化しているのか、もうすこし詳しく調べてみよう。

① 「もっぱら-ию使用」→「両方使用」/「もっぱら-ью使用」

カラムジンで「もっぱら-ию使用」の79語のうち、『罪と罰』にも現れるのは13語、そのうち благодарностию など11語⁽⁹⁾は「両方使用」、грустию, дерзостию は「もっぱら-ью使用」である。（【参考資料】①⑤⑥）

② 「両方使用」→「両方使用」/「もっぱら-ью使用」

カラムジンで「両方使用」の10語のうち、『罪と罰』にも現れるのは5語、そのうち кровию/ью, смертию/ью は「両方使用」、любовию/ью, материю/ью は「もっぱら-ью使用」だが、грубостию/ью だけは「もっぱら-ию使用」である。（【参考資料】③④⑤⑥）

③ 「もっぱら-ью使用」→「もっぱら-ью使用」

カラムジンで「もっぱら-ью使用」の33語のうち, болью など12語⁽¹⁰⁾が『罪と罰』にも現れるが、それらはすべて「もっぱら-ью使用」である。（【参考資料】②⑤）

⁽⁹⁾благодарностию, болезнию, важностию, жадностию, жизнью, мыслию, откровенностию, помощью, точностию, целию, частью.

⁽¹⁰⁾болью, бранью, грудью, грязью, дверью, дочерью, лошадей, ночью, погибелью, пылью, пятью, солью.

以上のように、「-ию/-ьюの使い分け」の変化の細部を見ても、カラムジンの「-ию優勢」が『罪と罰』では「-ью優勢」に変わってゆくのが全体の流れといえる。ただ *грубостию/ью* だけは、カラムジンの「両方使用」が『罪と罰』では「もっぱら-ию使用」になり、全体の流れからはずれた例外となっている。

ではカラムジンと『罪と罰』で「-ию/-ью」はそれぞれどのような基準によって使い分けられているのだろうか。

用例を概観すると、カラムジンではこの「使い分け」は主に各単語の性質に応じて行われているように思われる。

カラムジンで「もっぱら-ию使用」の単語（192件79語）は、比較的長く（平均9.7字）、使用頻度の低い（平均2.4回）、抽象的な意味の単語が多い。一方「もっぱら-ью使用」の単語（113件33語）は、比較的短く（平均6.9字）、使用頻度の高い（平均3.4回）、日常的、具体的な意味の単語である。

また「-ию/-ью両方使用」のグループには *кровию(5)/ью, любовью(11)/ью(3), материю(2)/ью(7), невинностию(4)/ью, нежностию(8)/ью(2), смертию(5)/ью*⁽¹¹⁾ など、「両方使用」とはいても、どちらか一方の表記が優勢の単語が多く、その大部分は「-ию優勢」で、「-ью優勢」は *материю/ью* のみである。これらの単語の例外的な表記の例については、大部分は「詩のなかでの使用」「慣用句」などの補助的な説明が可能である。⁽¹²⁾

さらに「-ию」と「-ью」が近接して（前後1行以内に）併存する例を調べてみると、【参考資料】⑦ 12003 *праздностию/матерью; 32431 сыростию/солью*⁽¹³⁾ の例のように、文法構造上同等の役割を果たす二つの単語あいだで「-ию/-ью」が使い分けられていて、「単語の別」によってという以外には、その「使い分け」の理由を見いだすことはむずかしい。

これらのことから、カラムジンでは「-ию/-ьюの使い分け」は単語ごとに決まっていると考えられる。

⁽¹¹⁾()内の数字は2回以上使用の場合の頻度数。以下同じ。

⁽¹²⁾*любовью(3)* のうち2例と、*невинностью, нежностью(2), смертью* はいずれも詩のなかで使われ、韻律の関係で「-ью」の表記になっていると思われる。*любовью* の1例（20812）は“*отвечать любовью на любовь*”という慣用句の例である。また *материю(2)* は247ページに集中して現れる。（この項浦井氏の指摘による）

⁽¹³⁾数字は単語の出場所。上3桁がページ、下2桁が行。以下同じ。

『罪と罰』でもこの「使い分け」はまず第一に単語ごとに決まっていると思われる。『罪と罰』で「もっぱら-ию使用」の単語（27件25語）は、比較的長く（平均11.8字）、使用頻度の低い（平均1.1回）、抽象的な意味の単語が多い。これらが上記 *грубостию* 以外すべてカラムジンにはない「新出語形」であることも興味深い。⁽¹⁴⁾一方「もっぱら-ью使用」の単語（159件69語）は、比較的短く（平均8.5字）、使用頻度が相対的に高い（平均2.3回）単語で、なかには「-ость」型の抽象名詞もかなり含まれるが、⁽¹⁵⁾中心はやはり日常的、具体的な意味の単語である。また「-ию」と「-ью」が近接して併存する例

には、カラムジンの場合と同じように、文法構造上同等の役割を果たす二つの単語あいだで「-ию/-ьюの使い分け」が行われていて、前後の文脈からもその理由は説明できない場合が多い。⁽¹⁶⁾したがって、『罪と罰』でも「-ию/-ьюの使い分け」はまず第一に単語ごとに決まっていると考えられる。

⁽¹⁴⁾выпуклостью, небрежностью, непочтительностью, покорностью, раздражительностью, самовлюбленностью, самостоятельностью, сластью, фамильярностью の9語はカラムジンには現れない。гордостью などその他の15語は造格形はカラムジンには現れない。

⁽¹⁵⁾восторженностью, действительностью, медлительностью, неблагодарностью, недоверчивостью, самоуверенностью, справедливостью, фантастичностью など長大な「-ость」型の抽象名詞も含まれている。

⁽¹⁶⁾【参考資料】⑧ 04545 выпуклостью/яркостью; 11626-27 восторженностью/мечтательностью; 26908 болью/ненавистью.

ところが『罪と罰』の「両方使用」の単語は、比較的数が多く（92件17語）、使用頻度は平均2.7回で、「もっぱら-ию使用」（平均1.1回）、「もっぱら-ью使用」（平均2.3回）いずれのグループよりも高いなど、カラムジンの「両方使用」の単語の場合とは違った点がいくつかあるので、多少慎重な検討が必要である。

もちろん、このグループにも мыслию(6)/ью(3), частью(7)/ью(2), кровию/ью(10), целью(2)/ью(10) など、「両方使用」とはいつても、どちらか一方の表記が優勢の単語が含まれている。мыслию/ью, частью/ью は、カラムジンでは мыслию(8), частью(7) と「もっぱら-ию使用」であり、『罪と罰』でも「-ию優勢」である。кровию/ью, целью/ью は、カラムジンでは кровию(5)/ью, целью(3) と「-ию優勢」あるいは「もっぱら-ию使用」だが、『罪と罰』では「-ью優勢」になっている。これらの単語では「-ию/-ьюの使い分け」が原則として単語ごとに決まっていると見える。

しかし、このグループの用例のなかには、「-ию/-ьюの使い分け」にそれとは別の要素が関係している場合がある。

『罪と罰』で唯一の кровию の用例（06327）は、ラスコーリニコフが老婆を撲殺した直後、死体のポケットを探る場面に現れ、事件の山場で強調のため太文字かイタリック体で記したのと同じような効果を上げており、江川氏の指摘する、強調のための「-ию」の使用の典型的な例といえる。

『罪と罰』で「-ию/-ьюの使い分け」に関係する要素としてそのほかに考えられるのは、「発話者の別」である。『罪と罰』の登場人物にはそれぞれ特徴的な語り口があり、第1節でも触れたように、それが語彙のレベルでもある程度確認できる。ミコールカ、ソーニャ、リップペフゼル夫人らの場合、特異な語彙の使用が各人物の性格描写の重要な手段となっている。同じように「-ию/-ьюの使い分け」にも各登場人物の語り口の特徴を示す意図があるかもしれないと予想できる。

そう考えて、『罪と罰』で「両方使用」の17語について発話者を調べてみたが、【参考資料】⑥の用例からは断定的なことをいうのはむずかしいようである。

用例のなかでもっとも数が多いのは「語り手」の発言（54件）だが、その「使い分け」

は「-ию」「-ью」各27件と、半数ずつに分かれていて、どちらが基本的な語り口なのかわからない。その理由はさまざまに考えられる。『罪と罰』の「語り手」は小説の登場人物ではなく、その発話にはいわゆる「疑似直接話法 *несобственно-прямая речь*」、形式は間接話法だが特定の登場人物の発言の文体的特徴を色濃く反映した直接話法に近い表現も含まれている。また、長い小説を通じて語りの調子、文体はさまざまに変化しており、「-ию/-ьюの使い分け」にも「語り手」の固有の語り口という要素のほかに、発話の状況、前後の文脈が大きく影響しているように思われる。

個々の登場人物のなかではラスコーリニコフの発言がいちばん多いが（12件）、ここでも「-ью」と「-ию」が6件ずつに分かれていて、どちらが基本的な口調なのかはっきりしない。彼は現代の若者なので、後で触れるラズミーヒンらと同じように、現代風の「-ью」が基本的な語り口のようにも思えるが、田舎の出身なので「古風な」「-ию」の使用が多いのか、あるいは興奮して話していることが多いので「-ию」の用例が多いのか、確言はできない。

しかし、それ以外の登場人物の発言については、数は少ないが、いくつかの用例では、「-ию/-ьюの使い分け」が発話者の別に従って行われているように思える。

たとえば *болезнию/ью* の例では、「語り手」の1例を別にすれば、ポルフィーリーが「-ию」2例、ラズミーヒンが「-ью」2例と、発話者別に「-ию/-ьюの使い分け」が行われているようにみえる。

もっとも、用例を登場人物ごとにまとめてみると、「-ию/-ью」どちらか一方だけを用いている人物はいないので、この「使い分け」にはもうひとつの要素、すなわち発話の状況、特に発話者の心理状態も大きな役割を果たしていると思われる。

ラズミーヒンは現代の若者で、ほとんどの場合「-ью」で話している（6例）。*смертию* 16639, *целию* 11630 などの例外もあるが、*смертию* 16639 はラスコーリニコフの「花嫁」の死について語った言葉で、そこには特別な思い入れが込められていると理解することができる。

スヴィドリガイロフの場合は「-ью」3例、「-ию」1例である。前者（*жизнью* 22110; *помощью* 21439; *смертью* 22033）がいずれも最初のラスコーリニコフ訪問のときの会話であるのに対し、後者（*частью* 36410）はドゥーニャとの「最後の対決」の直前、ラスコーリニコフとの最後の会話の場面で語られているので、前者は彼の比較的平静なときの語り口、後者は思い詰めた緊張状態での口調と考えることができる。また *частью* は、すでに述べた通り、発話者にはかかわりなく「-ию」の表記が優勢、という事情もある。

ルージンの場合も「-ью」3例、「-ию」1例である。ただし前者はいずれも *целью* の例で、この単語は、すでに述べた通り、発話者にかかわりなく「-ью」の表記が優勢なので、断定はむずかしい。敢えていえば、婚約者の母への手紙（16808）、「盗まれた金」についての長広舌（30224）、そのうそがばれそうになってのあわてた言い逃れ（30711）と、発話の状況は違っても、彼はこの単語をいつも同じように発音（表記）する、一方 *помощию* 30413 の例では、ソーニャに身体検査を迫る山場で、緊張のあまり吃ってしまった、と理解することができる。

ポルフィーリーの場合は「-ию」2例、「-ью」1例である。例が少ないため一般化は慎

重を要するが、強いていえば、前者 (болезнию 19844, 26617) は彼が旧世代の人間であることを示しており、жизнью 35107 は大詰めも近づいて、ラスコーリニコフに、万感の思いを込めて、それでも生きてゆくように勧める場面で語られているので、彼としては思い入れの強い特別の口調のように思われる。

以上のように、ラズミーヒン、スヴィドリガイロフ、ルージン、ポルフィーリーについては、少ない用例のなかで多少の推測も交えていえば、前3者は現代風の「-ью」、ポルフィーリーだけは「古風な」「-ию」が基本的な語り口で、興奮したとき、緊張したときにはそれぞれいつもとは違った口調で話すことがある、と理解できるように思われる。

最後に江川氏が取り上げた жизнию/ью の用例について考えてみよう。жизнь について江川氏は「『生活』とも『人生』とも『生涯』とも訳せる、ごく一般的なロシア語」と述べているが、この単語は小説のなかで作品のキーワードといってもよい重要な役割を果たしている。江川氏自身もすこしあとでこう書いている。

そのことと関連して、「新しい人生」を「ソーニャとの新生活」と理解することにも疑問がある。ここの「人生」(жизнь) もやはり造格形で、«жизнию»と古めかしく表記されているからである。ドストエフスキーはこの「人生」(жизнь) に何かのアクセントを置こうとしていた。そして、おそらくそれは、すでにカトコフへの手紙にもあったような、「人類に対するヒューマンな負債」をひたむきに「帳消し」にして行く「新しい人生」ではないかと思われる。いや、それは「人生」と呼ばれるにもふさわしくないもの、創作ノートに何度か書きこまれている「ポードヴィク」ではないかとさえ想像される。「ポードヴィク」とは、自己を万人のために捧げるいさおし、そのための苦行の生を指すロシア語である。⁽¹⁷⁾

⁽¹⁷⁾ 『謎とき「罪と罰」』p.163。ここで取り上げられているのは【参考資料】⑥ жизнию 08635 の例である。

コンコーダンスを見ると『罪と罰』で жизнь はさまざまな変化形で117回使われている。江川氏の指摘する通り、その大部分は「生活」「人生」「生涯」と訳されるきわめて具体的な意味で用いられている。しかし новая жизнь 08635, 36519, 41345, 41538, 42021, 42142, 42234; новая прекрасная жизнь 24420; полная и могучая жизнь 14603 などの例には「生」とでも訳したくなるような強い象徴的意味があるように思える。ここで жизнь の個々の用例の意味や訳語の問題に深入りする余裕はないが、ある場合この単語に作者の特別の思い入れが込められているのはたしかのようである。

жизнь は、カラムジンでは「もっぱら-ию使用」(8件)だが、『罪と罰』では「両方使用」で、「-ию」「-ью」がそれぞれ3例ずつある。

жизнию の3例のうち、08212, 08635 はいずれも、江川氏が作者はそこに「何かのアクセントを置こうとしていた」と指摘した例である。また 25307 はラスコーリニコフがソーニャに聖書のラザロの復活の場面を読んでもらったあと、もし明日来られたらリザヴェータを殺したのはだれか教えよう、と約束する場面で語られている。3例とも、発話

者（「語り手」、ラスコーリニコフ）の強い思い入れ、緊張を感じさせる。

жизнью の3例には、それとは別の要素が反映している。22110の例は、前にも触れたが、スヴィドリガイロフが最初のラスコーリニコフ訪問のとき、亡くなった妻マルファの幽霊を見た話をし、幽霊の存在を論証しようとする場面で語られている。かなり幻想的な場面だが、ここでスヴィドリガイロフはいたって冷静である。35107の例にもすでに触れた。大詰め近くで、ポルフィーリーが万感の思いを込めて、ラスコーリニコフに、それでも生きてゆくよう勧める場面で語られていて、かなり高揚した調子だが、彼の場合「-ию」が通常の語り口であり、「-ью」は思い入れの強い特別の口調と思われる。42148はエピローグの最後で、ラスコーリニコフの「よみがえり」を伝えたあと、ソーニャについて「彼女は彼の生だけを生きてきた」と述べた箇所である。これも感嘆文で、高揚した叙述だが、エピローグの文体は小説の本体とはかなり違っていて、「-ию/-ьюの使い分け」はほとんど行われず、原則として「-ью」が用いられているのである。⁽¹⁸⁾

⁽¹⁸⁾ жизнью 42148; мыслью 42216; помощью 41122, 41403; точностью 41120。唯一の例外は частью 41136, 41137 だが、この単語は、前にも述べた通り、「-ию優勢」である。

以上『罪と罰』における女性名詞造格語尾「-ию/-ью」の使い分けの様子を見てきたが、この「使い分け」には、(1)単語の別のほかに、(2)発話者の別、及び(3)発話の状況、発話者の心理状態、という三つの要素が関係しており、とりわけ(2)(3)の場合には作者の創造的意志が強く働いているとみられることが確かめられた。

【参考資料】カラムジンと『罪と罰』における女性名詞単数造格語尾「-ию/-ью」の使い分け

①カラムジンでもっぱら ию 使用の単語：192件 79語

* はカラムジン、『罪と罰』両方で使用の語形。() 内は2回以上使用の場合の頻度数。(以下同じ)

бессмертию	добродетелию	мыслию* (8)	правильностию	тению(14)
благодарностию* (8)	древностию(2)	набожностию	праздностию(2)	торжественностию
благосклонностию	дряхлостию	наглостию	приветливостию	точностию*
благостию	жадностию* (3)	наружностию	прилежностию(2)	трудностию
бодростию(2)	жестокостию(2)	нелепостию	приятностию(7)	тяжестию
болезнью* (3)	живостию(5)	неловкостию	пышностию(2)	удобностию
важностию* (8)	жизнью* (8)	необозримостию	радостию(5)	усталостию
верностию	задумчивостию	неутомимостию	ревностию(3)	учтивостию(4)
ветвью	зрелостию	ничтожностию	светлостию	храбростию(2)
властию	искренностию(2)	новостию	сению(8)	целию* (3)
гнилостию	кистию(2)	обходительностию	скоростию(2)	цепию(2)
говорливостию	кротостию(2)	обширностию(2)	совестию(3)	частью* (7)
гордостию(2)	легкостию(3)	откровенностию*	способностию	честью
горестию(3)	ловкостию	печатию(2)	строгостию(2)	чувствительностию(3)
грустию*	любезностию(6)	помощию*	сыростию(2)	яростию(3)
дерзостию* (2)	милостию	поспешностию	твердостию(2)	

②カラムジンでもっぱら юю 使用の単語：113件 33語

болью*	дочерью* (3)	лошадью*	ночью* (26)	площадью(2)	рысью	тростью(8)
бранью*	живописью(6)	молью	осенью(3)	погибелью*	скатертью	церковью
грудью* (4)	зеленью(5)	мудростью	осмью	пылью* (4)	собственностью	шестью(4)
грязью*	костью	надписью(21)	осью	пятью* (2)	солью*	
дверью* (3)	лазурью	нитью(2)	памятью	роскошью(2)	стыдливостью	

③カラムジンで ию/юю 両方使用の単語：61件 (ию 41件; юю 20件) 10語 (20語形)

грубостию* /юю	кровию* (5)/юю*	материю(2)/юю* (7)	нежностию(8)/юю(2)	скромностию(3)/юю
колыбелию/юю	любвию(11)/юю* (3)	невинностию(4)/юю	пропастию/юю(2)	смертию* (5)/юю*

④『罪と罰』でもっぱら ию 使用の単語：27件 25語

выпуклостию	мечтательностию	раздражительностию(2)	твердостию
гордостию	милостию	робостию	торжественностию
грубостию* (2)	небрежностию	самовлюбленностию	тягостию
заботливостию	непочтительностию	самостоятельностию	фамильярностию
игривостию	неприятностию	слабостию	
искренностию	ничтожностию	сластию	
кротостию	покорностию	строгостию	

⑤『罪と罰』でもっぱら юю 使用の単語：159件 69語

акварелью	дверью* (25)	любовью* (2)	поспешностью(2)	солидностью
бедностью(2)	действительностью(3)	матерью* (16)	постелью(2)	солью*
блажью	дерзостью*	медлительностью	примесью	справедливостью
болью* (7)	дочерью* (6)	медью	проседью(4)	страстью
бранью*	дрожью(2)	мышью(2)	пылью*	тварью
вонью	злостью	наглостью	пятью*	тысячью
восторженностью	известью	настойчивостью	радостью	фантастичностью
геранью	исповедью	неблагодарностью	речью(2)	хитростью(3)
гибелью	казнью	неделовитостью	решимостью(2)	честью
горечью(3)	кроватью	недоверчивостью(3)	самоуверенностью	шалью(3)
грудью* (4)	ладонью(2)	ночью* (13)	свежестью(2)	широкостью
грустью*	лестью	ощупью(2)	связью	эмалью
грязью* (2)	лошадью*	погибелью*	скатертью	яркостью
двадцатью	любезностью	подробностью	совестью	

⑥『罪と罰』で ию/ью 両方使用の単語：92件 (ию 41件; ью 51件) 17語 (34語形)

各用例の末尾の数字は単語の出現場所。上3桁がページ、下2桁が行。(以下同じ)

各用例の末尾にそれぞれの発話者を省略形で記した。省略形は以下の通り。

Замет:	Заметоф	Свѣи:	Свѣидригайроф	Сонья:	Сонья
Фоми:	Никожим・Фомиチ	Полф:	Полфѣерѣ	Марме:	Мармеラードф
Ласко:	Ласкорѣникоф	Лазми:	Лазмиерѣн	Лужн:	Лужн
Левеж:	Левежартникоф	学生	居酒屋の学生	母	Ласкорѣникофの母

благодарностию* /ью

сопровожаемый благословениями, горячею **благодарностию**, мольбами и даже протянувшюся 15930 語り手
Разумихина как на провидение, с умилением и **благодарностию**; они уже слышали от Настасьи, 15108 語り手

болезнию* (3)/ью(2)

Петровича, на этот раз весьма мало извиняя его **болезнию**. -- он еще до болезни это придумал, -- 16711 語り手
исполнения преступления сопровождается всегда **болезнию**. очень, очень оригинально, но... 19844 Полф
... болезнь, Родион Романович, болезнь! **болезнию** своей пренебрегать слишком начали-с. 26617 Полф
на его сестре и что Родя об этом, перед самой **болезнью**, письмо получил... -- да; черт его принес 11948 Лазми
как это тебя раздражило тогда и вместе с **болезнью** сплелось... я, брат, пьян немного, только, 14942 Лазми

важностию* (2)/ью

должна была встретить всех с удвоенною **важностию** и даже с высокомерием. особенно строго 29338 語り手
Соню, Катерина Ивановна с той же **важностию** осведомилась: как здоровье Петра Петровича? 29538 語り手
что и среда, -- с удивительною **важностию** заметил Порфирий, -- преступление над девочкой 19737 語り手

глупостию/ью(2)

и прочим, и только беспокою я вас **глупостию** всех этих мизерных подробностей домашней жизни 01942 Марме
в ней да глупости> -- и всё одною только **глупостию** объясняется! оттого так и не любят живого 19711 Лазми
(при неудаче всё кажется глупо!) эту **глупостию** я хотел только поставить себя в независимое 40021 Ласко

жадностию* (4)/ью(2)

углу, за липким столиком, спросил пива и с **жадностию** выпил первый стакан. тотчас же всё 01046 語り手
и затягивая речь. с какою-то даже **жадностию** накинулся он на Раскольникова, точно целый 01316 語り手
был только что теплый. Раскольников с **жадностию** проглотил одну ложку, потом другую, третью. 09520 語り手
приведу Зосимова. Зосимов с какою-то даже **жадностию** накинулся на Раскольникова; в нем 14832 語り手
солнце заходило. духота стояла прежняя; но с **жадностию**дохнул он этого вонючего, пыльного, 12040 語り手
он ел и пил с большим аппетитом, чуть не с **жадностию**. голова его была свежее, и он сам 33803 語り手

жизнию* (3)/ью(3)

мучительнейшее ощущение из всех до сих пор **жизнию** пережитых им ощущений. 08212 語り手
началось, так и началось, черт с ней и с новою **жизнию**! как это, господи, глупо!.. а сколько я 08635 Ласко
и когда-нибудь, потом, через годы, с **жизнию**, может, и поймешь, что они значили. если же 25307 Ласко
а стало быть, должен жить одною здешнею **жизнью**, для полноты и для порядка. ну а чуть заболел, 22110 Свѣи
грустно и внушительно поглядел на него. -- эй, **жизнью** не брезгайте! -- продолжал Порфирий, -- 35107 Полф
а она -- она ведь и жила только одною его **жизнью**! вечером того же дня, когда уже заперли 42148 語り手

кровию* /ью* (10)

ей в карман, стараясь не замараться текущею **кровию**, -- в тот самый правый карман, из которого 06327 語り手
в эту зиму простудилась и кашлять пошла, уже **кровью**. детей же маленьких у нас трое, и 01519 Марме
-- кричит Миколка, с ломом в руках и с налитыми **кровью** глазами. он стоит будто жалея, что уж 04924 語り手
замок, красть и дрожать; прятаться, весь залитый **кровью**... с топором... господи, неужели?> 05004 Ласко
<действительно знаки! весь кончик носка пропитан **кровью**>; должно быть, он в ту лужу 07229 Ласко
под воротами, -- с топорами, с **кровью**, с злодейскою хитростью, осторожностью, грабежом? 10940 Лазми
намочил его водою и стал обмывать залитое **кровью** лицо Мармеладова. Катерина Ивановна 14020 語り手
прямо в глаза. -- а как вы, однако ж, **кровью** замочились, -- заметил Никодим Фомич, разглядев 14543 Фоми
и, уж конечно, не останавливались и перед **кровью**, если только кровь (иногда совсем невинная 20004 Ласко
было, закуски были и всё... то руки ломает, **кровью** харкает, плачет, вдруг стучать начнет головою 24414 Сонья
чахоточном лице, в этих иссохших, запекшихся **кровью** губах, в этом хрипло кричащем голосе, 30507 語り手

мыслию* (6)/ью(3)	
мимо Юсупова сада, он даже очень было занялся мыслию об устройстве высоких фонтанов и Пульхерия Александровна, вся встревоженная мыслию о своем Роде, хоть и чувствовала, что он медленно, как бы вдруг пораженный новой мыслию , -- да из чего я так хлопочу? из чего весь Раскольников. -- вообще людей с новой мыслию , даже чуть-чуть только способных сказать хоть останавливался неподвижно перед какою-нибудь мыслию : <нет, те люди не так сделаны; им сразу, захватило его всего -- с телом и мыслию . он вдруг вспомнил слова Сони: <поди на -- и остановился, как будто вдруг пораженный мыслию , внезапно промелькнувшею в уме его. он лежал и словно грезил: мысль сменялась мыслию . казалось, ему очень бы хотелось хоть чем-нибудь думать, сосредоточиться на чем-нибудь мыслию ; да он ничего бы и не разрешил	06020 語り手 15338 語り手 17941 語り手 20216 ラスコ 21048 語り手 40524 語り手 12613 ザメト 38935 語り手 42216 語り手
ненавистию/ью (5)	
-- зашептал он вдруг по-давешнему, с болью и с ненавистию мгновенно сознавая в себе, что не проснулся он желчный, раздражительный, злой и с ненавистию посмотрел на свою каморку. это -- пробормотал он, посмотна нее чуть не с ненавистию и насмешливо улыгнувшись. -- я бы должен его без меры, бесконечно, и даже боялся своею ненавистию как-нибудь обнаружить себя. и так над своим гостем, принимающим этот смех с ненавистию , и очень мало конфузится от этого проклятых <потребностях>! -- вскричал он с ненавистию , -- тьфу, как я злюсь и досаую, что,	26908 語り手 02526 語り手 17441 語り手 25436 語り手 25702 語り手 28444 語り手
необходимостию/ью	
мучительное сознание своего бессилия перед необходимостию почти придавило его. чтоб уже подарка с немедленным отъездом и непременною необходимостию прийти для того в дождь и	31212 語り手 38623 語り手
осторожностию/ью (2)	
что можно как-нибудь избежать беды -- осторожностию , кротостию, покорностию перед всем -- с топорами, с кровью, с злодейскою хитростию, осторожностию , грабежом? тотчас же убили, сиди, лежи, пиши... поцеловать даже можно, с осторожностию ... -- да на что мне она?	31037 語り手 10941 ラズミ 16108 ラズミ
откровенностию* /ью	
Петровну? -- ну да, -- улыбнулся с побеждающею откровенностию Свидригайлов. -- так что ж? представляя им резоны с изумительною откровенностию , и, вероятно для большего убеждения,	35931 語り手 15329 語り手
помощию* (5)/ью(4)	
убей ее и возьми ее деньги, с тем чтобы с их помощию посвятить потом себя на служение всему взял пульс, внимательно ощупал голову и, с помощию Катерины Ивановны, отстегнул всю отыскивать Петра Петровича, чтобы хоть с его помощию ... потому что ведь мы были одни, распорядилась сама Катерина Ивановна, с помощию одного жильца, какого-то жалкого полячка, мужчине... по причине пола... если бы с помощию Амалии Ивановны... хотя, впрочем, так дело не пустит, вследствие предубеждения, ну, а с вашей помощию я, напротив, рассчитываю... -- плохо кой-каким связям, отыскались такие лица, с помощию которых можно было поместить всех троих упрочить первые шаги своей жизненной карьеры с помощию , по крайней мере, трех тысяч рублей особенно неговорлив во всё время. Соня, с помощию денег, оставленных ей Свидригайловым,	05430 学生 14227 語り手 17325 母 29112 語り手 30413 ルジン 21439 スヴィ 33628 語り手 41122 語り手 41403 語り手
смертию* /ью*	
уж слаженный и не состоявшийся лишь за смертию невесты, был самой госпоже Зарницыной он мне отомстить>, потому что перед самою смертию мы крепко поссорились. <как ты смеешь,	16639 ラズミ 22033 スヴィ
точностию* /ью	
было бы узнать накануне и наверно, с большею точностию и с наименьшим риском, без всяких он отвечал весьма ясно, с самою грубою точностию , что причиной всему было его скверное	05221 語り手 41120 語り手
целию* (2)/ью(10)	
-- а потому перестанемте. я ведь и заговорил с целию , а то мне вся эта болтовня-себятешение, наводя на этот разговор как бы с какою-то целию . -- что? вы говорите, что и меня приглашали? для характеристики лица или с дальнейшею целию : задобрить меня в пользу господина Лужина? своим особом мире, с ярко и позорно выдающеюся целию . Соня остановилась в сенях у самого встретить вас у дебаркадера не мог, послав с тою целию человека, весьма расторопного. было Раскольникову, что в немецком <швах>, с целию уговорить его взять на себя половину не наплевать, а протестовать. я с полезною целию . я могу косвенно способствовать развитию и	11630 ラズミ 28115 語り手 03543 ラスコ 14330 語り手 16808 ルジン 23821 語り手 28211 レベジ

но главное, был припасен с тою **целью**, чтоб окончательно срезать <обеих расфуфыренных
 братился к столу, с лежавшими на нем деньгами, с **целью**, сосчитав их, отложить, как и
 быть, я нарочно ей подложил? для чего? с какою **целью**? что общего у меня с этой...
 Софье Семеновне. всё это, как вы понимаете, с **целью** поссорить меня с матерью и сестрой,
 выбежала на улицу -- с неопределенною **целью** где-то сейчас, немедленно и во что бы то ни стало
частью* (7)/ью(2)

29823 語り手
 30224 ルジン
 30711 ルジン
 30843 ラスコ
 31123 語り手

расставив руки врозь, и подпрыгивать верхнюю **частью** корпуса, не вставая с лавки, причем
 эту церковь и старинные в ней образа, большею **частью** без окладов, и старого священника
 относительно и многообразны; большею **частью** они требуют, в весьма разнообразных
 казнить? -- если надо и, знаете, даже большею **частью**. вообще замечание ваше остроумно.
 в случаях наших ссор я, большею **частью**, молчал и не раздражался, и это джентельменничанье
 воспользовался ограбленным, зачтено **частью** за действие пробудившегося раскаяния, частью
 частью за действие пробудившегося раскаяния, **частью** за несовершенно здоровое состояние
 Раскольников, опять интересуясь финансовой **частью** дела. -- о, на самой простейшей-с! -- и
 стола, стучали и сыпались перед ним большею **частью** как пустые звуки. но часть их он все-таки

01117 語り手
 04629 語り手
 20033 ラスコ
 20122 ラスコ
 36410 スヴィ
 41136 語り手
 41137 語り手
 19309 語り手
 40826 語り手

⑦:カラムジンで ию と ью が近接して (前後1行以内に) 並存する例 (* をつけた単語) : 4例

12002 держат более одной служанки, то всякая хозяйка находит для себя много
 12003 дела в домашней жизни, не угнетается праздностью*, матерью* многих пороков,

18003 детей, и бросился обнимать их. никогда, никогда вас не забуду! сказал

18004 он с нежностью*: никогда не перестану называть тебя отцом моим,

18005 тебя матерью*, вас братьями и сестрами! теперь простите: естели

31036 под сению* одного дерева стоит канапе, с надписью*:

32430 впрочем все кажется мне здесь печальным и бедным. воздух напрован

32431 сыростию* и тонкою морскою солью*, которая неприятным образом

⑧:『罪と罰』で ию と ью が近接して (前後1行以内に) 並存する例 (* をつけた単語) : 4例

04544 в болезненном состоянии сны отличаются часто необыкновен-

04545 ною выпуклостью*, яркостью* и чрезвычайным сходством с действи-

04546 тельностью*. слагается иногда картина чудовищная, но обстановка

11626 слишком долго не приходившая, заслоненная восторженностью* и

11627 мечтательностью*, а казалось бы, немного надо остроумия, чтобы

14227 ощущал голову и, с помощью* Катерины Ивановны, отстегнул всю

14228 смоченную кровью* рубашку и обнажил грудь больного. вся

26907 -- я не дам себя мучить! -- зашептал он вдруг по-давешнему,

26908 с болью* и с ненавистью* мгновенно сознавая в себе, что не может